

文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業
「リサーチマインドを持った総合診療医の養成」採択事業



次世代の地域医療を担う リーダーの養成



お問い合わせ

筑波大学附属病院 総合臨床教育センター
総合診療医養成事業推進支援室
〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1
Tel : 029-853-3339/3520
Fax : 029-853-3687
E-mail: mirai.iry@un.tsukuba.ac.jp
URL http://www.hosp.tsukuba.ac.jp/mirai_iry/

筑波大学は、 次世代の地域医療をリードする、 優れた総合診療医を養成します！



事業の背景

急速な高齢化を迎える我が国の医療は、「病院で治す医療」から「地域で支える医療」へと大きく変わろうとしています。その実現のために、多様な健康問題に柔軟に対応でき、関係する各職種と緊密に連携して包括的なケアを提供できる総合診療医の果たすべき役割がきわめて重要になります。

このような流れを受けて今年度から導入された文部科学省の未来医療研究人材養成拠点形成事業「リサーチマインドを持った総合診療医の養成」において、筑波大学は応募 59 大学の中から優れた取組として選定された 15 大学の一つとして、5 年間(予定)にわたる事業を展開していくことになりました。

事業の趣旨

本学は、早くから総合診療医の養成に取り組んでおり、これまで多くの専門医を輩出してきましたが、本事業では「次世代の地域医療を担うリーダーの養成」をテーマとして掲げ、研修体制をさらに強化・発展させていきます。

我々が考える「地域医療を担うリーダー」としての総合診療医は、地域住民の抱える様々な健康問題に幅広く対応できる専門性の高い臨床能力および研究能力である「テクニカルスキル」だけでなく、周囲と協調しながら組織を作り上げてそれを発展させていく能力としての「ノンテクニカルスキル」も兼ね備えた人材です。これまでの医師養成は、テクニカルスキルの修得のみに重点が置かれていましたが、今回の事業では、この両者をバランスよく取り入れた質の高い研修プログラムを導入することが最大の長です。

また実際の教育は、地域医療の第一線を担う病院・診療所に大学教員を派遣する本学独自のシステムである地域医療教育センター・ステーションを中心とした医療機関で実施され、最適な学習環境下で研修できることも大きな長です。

本事業を通して、大学-地域循環型のキャリアパスを確立して、将来の超高齢社会における地域包括ケアをリードできる、優れた総合診療医を数多く養成するとともに、そのノウハウを確立して全国に広く情報発信することを目指します。

本事業で養成する総合診療医像

これからの総合診療医には、臓器や年齢に偏らず、保健・医療・福祉にわたり幅広く対応できる臨床能力に加えて、地域包括ケアシステムのコーディネーターとして、さまざまな職種と連携して多様な問題に包括的に対応する能力が求められています。

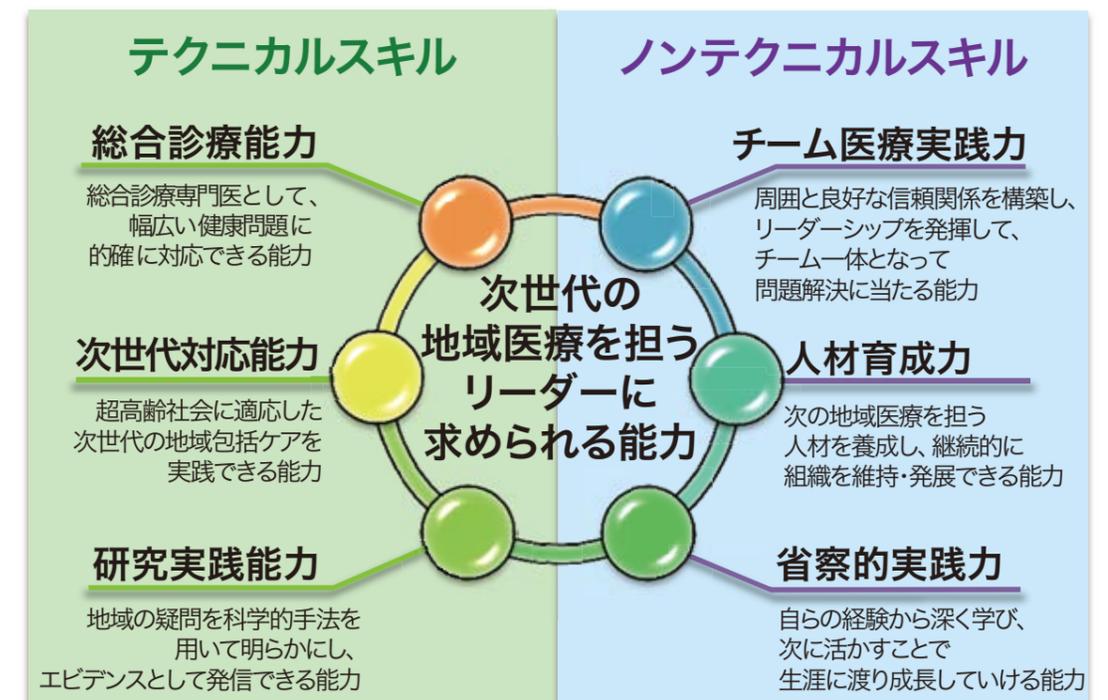
それを実践するために、総合診療医には専門性の高い幅広い臨床能力・研究能力といった「テクニカルスキル」に加えて、コミュニケーション、チームワーク、リーダーシップなど、チームとしての働きを円滑にするための人と人の関係に焦点を当てたスキルである「ノンテクニカルスキル」も兼ね備えていることが求められます。



本事業では、この両者をバランスよく修得できる、体系的な教育プログラムの構築を目指します。

具体的には、次世代の地域医療を担うリーダーに求められる能力を、以下の6領域で明確化することで、本事業の教育プログラムに参加する学生・研修医・フェロー自身にも、修得すべき能力をわかりやすく提示しています。

この能力を修得するために、産業界など、医療界以外で実践されているノウハウも積極的に取り入れて、確かな人材を養成できるプログラムを提供していきます。



段階的に明確な人材養成目標に向かう体系的な教育プログラム

最終的なゴール「次世代の地域医療を担うリーダー」に到達するために、
学習者のレベルに合わせて、
3段階の研修プログラムとキャリア支援を、
体系的に提供します。

STEP 1 学生・研修医

総合診療入門プログラム 総合診療塾

将来総合診療医をめざす学生・研修医を対象とした登録制の入門プログラムです。

年間を通して週1回の講義・演習+長期休みを利用した実習(学生のみ)の形で運営され、登録した学生・研修医には一人一人担任教員がついて定期的に面談を行い、総合診療医としての基礎能力の修得とキャリアイメージの醸成を図ります。

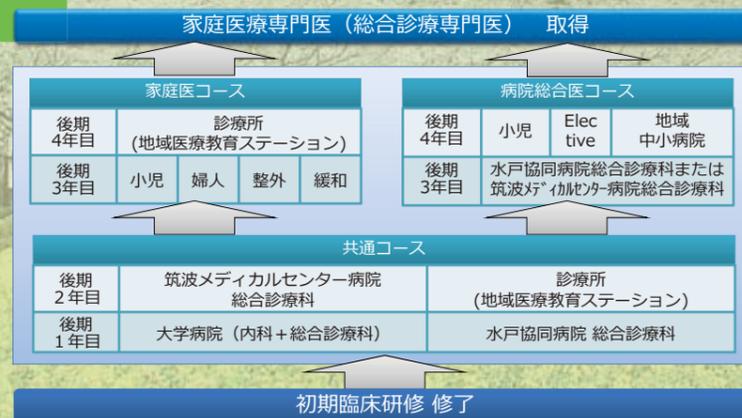
研修内容：臨床推論講義・演習、在宅ケア・緩和ケア実習、多職種カンファレンス実習など

STEP 2 後期研修医

次世代対応型 総合診療専門医養成プログラム

全国有数の研修プログラムとして多くの家庭医療専門医を輩出してきた本院の実績を生かし、新しい総合診療専門医制度にいち早く対応するとともに、在宅ケアや緩和ケアなどの次世代の総合診療医に求められる診療能力を大幅に強化した研修プログラムを導入します。

研修スケジュール(例)



STEP 3 総合診療専門医

総合診療医フェロープログラム 大学院プログラム

総合診療専門医取得後、さらに専門的なスキルを修得し、将来の地域医療を担うリーダーを養成するプログラムです。
フェロープログラムでは総合診療専門医に加えて、一つの領域をさらに掘り下げて学びます。

大学院プログラムでは、地域の現場からの疑問を科学的な方法で明らかにし、エビデンスとして発信できる Physician Scientist を育成します。また、総合診療医と両輪を成し、リーダーシップを発揮できる地域基盤型高度実践看護師を養成するプログラムを設置します。

フェロープログラム

緩和医療

・緩和医療専門医を取得し、質の高い緩和ケア(在宅含む)が提供できる。

在宅医療

・在宅医療専門医を取得し、看取りを含む高度な在宅医療が提供できる。

プログラム責任者養成

・プログラム責任者として自ら研修プログラムを立ち上げ、運営できる。

多職種連携教育

・多職種連携の理論的背景を理解した上で、その教育を計画・実施できる。

ヘルスプロモーション

・健康増進・疾病予防に関する教育を自ら企画・実施でき、人材養成ができる。

大学院プログラム

地域医療教育学研究

・地域における疑問を、科学的方法で明らかにし、evidenceとして発信できる。

地域基盤型高度実践看護

・地域医療に有益な変化をもたらすケアプログラムを自らデザインし実践できる。

※本プログラムで開発された教育コンテンツを地域の医療者向けに再編集して、e-learningで提供するインテンシブコースを併設する。

最適の地域医療フィールドに大学の教育機能を展開

地域医療で活躍できる人材を養成するには、地域医療の現場で、充実した教育体制の下で十分な経験をすることが必要不可欠です。そのためには、フィールドを持つ地域医療機関と、教育研究機能を持つ大学が緊密に連携して、最適な地域医療教育の「場」を構築することが必要になります。

ICT（情報通信技術）を活用した教育ネットワークの構築

全ての教育拠点は、専用の遠隔テレビ会議システムに接続されています。中心となる大学には、専任のスタッフを配置して、「いつでも」「どこでも」先進の知識を学び、キャリア支援を受けられるシステムを導入します。



地域医療で活躍する医療人を養成する「場」の構築

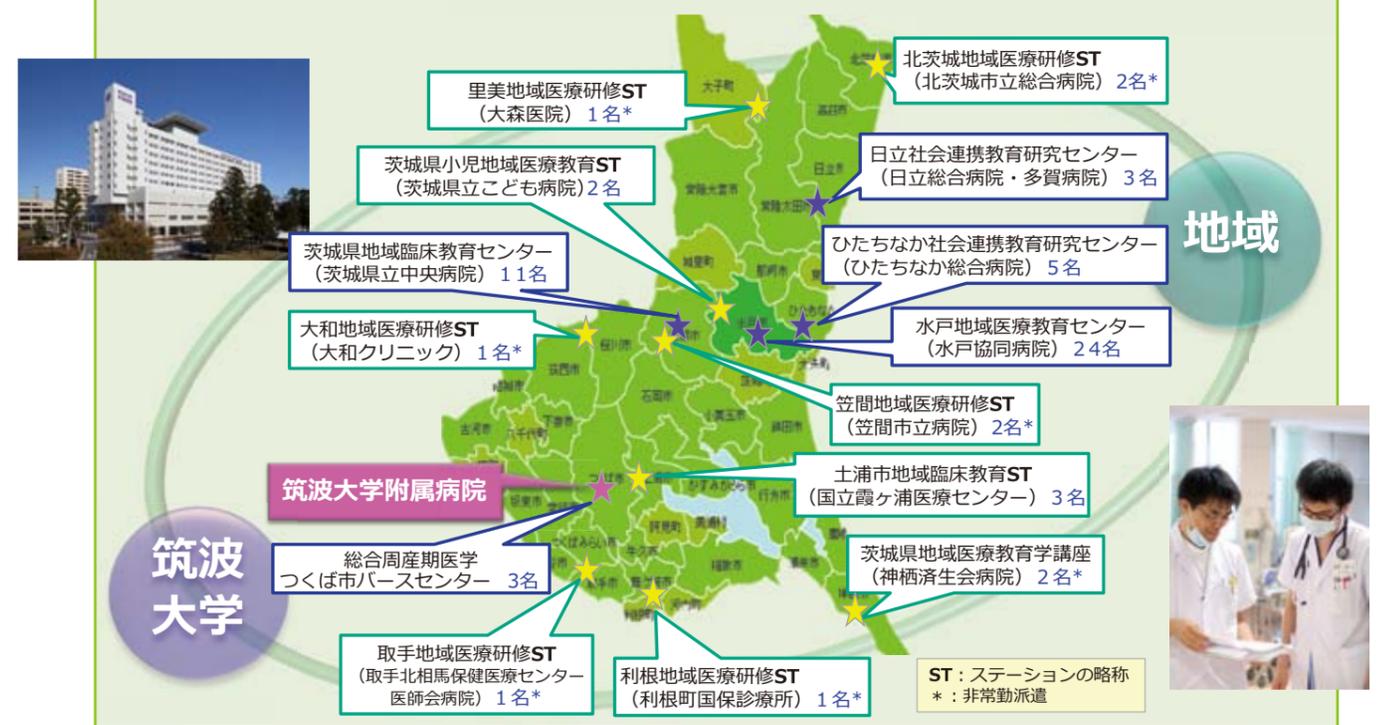


地域医療教育センター・ステーションの設置

本学では、全国に先駆けて地域医療の第一線に大学教員を実際に派遣して地域医療教育の充実を図る「地域医療教育センター・ステーション」を導入しました。平成25年度には50名を超える教員が配置され、地域医療の現場で教育にあたっています。全体のコーディネータは、全国でも屈指の規模と実績を持つ教育支援組織である総合臨床教育センターが担当します。

このシステムを基盤として、総合診療医の教育環境、キャリア支援体制をさらに強化します。

地域医療教育センター・ステーションへの大学教員派遣と教育連携



このシステムを活用して、大学と地域両方を経験しながら地域医療に必要な能力を修得する

「大学—地域循環型研修システム」を確立し、

高みを目指す学習者に、希望の持てるキャリアイメージを示します。

学習者が充実した研修の中で、

「いつでも、どこにいても、安心して、計画的に指導・支援を受けられる」

と感じられる環境を実現することが、この事業の大きな目標です。

筑波大学は、地域と一体となって、
未来の地域医療をリードできる
総合診療医の養成を目指します。